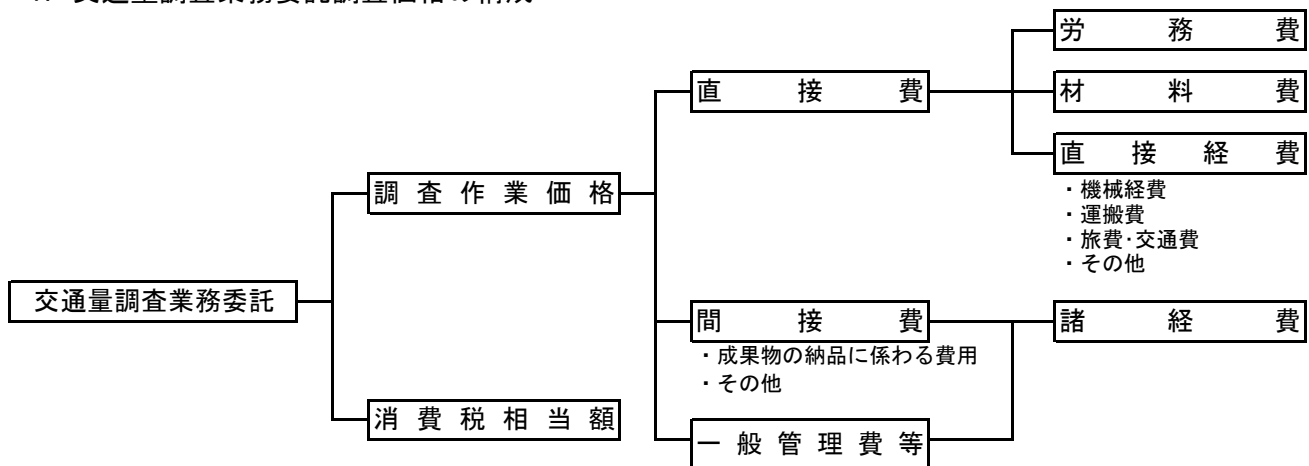


# 交通量調査業務委託積算基準

R5. 10. 1以降起工適用

## 1. 交通量調査業務委託調査価格の構成



## 2. 材料費

材料費は、当該調査を実施するに要する材料の費用を計上する。

## 3. 機械経費

機械経費は、当該調査を実施するに要する費用であり、その算定は別に定められた「建設機械等損料算定表」に基づいて積算するものとする。

## 4. 運搬費

運搬費は、当該調査を実施するに要する調査用テーブル・椅子等の運搬、及び必要に応じて調査員の輸送に要する費用を計上する。

## 5. 打合せ

業務区分	測量主任技師	測量技師	測量技師補
業務着手時	0.5	0.5	
中間打合せ（1回当たり）		0.5	0.5
成果物納入時	0.5	0.5	

本業務の打合せは、業務着手時、成果物納入時の計2回原則行うこととする。  
なお、中間打合せが必要な場合は別途計上することとする。

## 6. 旅費・交通費

打合せ協議に係る旅費等については福島県土木部「測量業務積算基準」に基づき、現地作業に係る旅費等については、本基準により積算するものとする。

## 7. 電子成果物作成費

電子成果物作成費は「設計業務等標準積算基準」の測量業務積算基準により計上する。

## 8. 諸経費

諸経費率は、「測量業務積算基準」の諸経費率を準用するものとする。

## 9. 消費税相当額

消費税相当額は、消費税相当分を積算するものとする。

# 交通量調査業務委託積算基準

R5. 10. 1以降起工適用

## 適用範囲

この積算基準は、道路の単路部及び交差点部の道路断面における交通量特性を得ることを目的として実施する業務の予定価格算定に適用するものとする。

本歩掛は、福島県内全域に適用する。

## 1. 作業計画

表－1 作業計画費内訳書

(1業務当り)

名 称	単位	数量	単価	金額	摘 要
測量技師	人	1.0			
測量技師補	人	2.0			
測量助手	人	2.0			

(備考) 作業規模等により、これによりがたい場合は別途考慮するものとする。

## 2. 準備費

### 2-1. 準備費内訳

表－2 準備費内訳書

(1業務当り)

名 称	単位	数量	単価	金額	摘 要
現地確認					
測量技師	人				備考 1
測量技師補	人				備考 1
ライトバン運転費	式	1			2-2. による
諸官庁への手続き					
測量技師補	人				備考 2
ライトバン運転費	式	1			2-3. による
器材運搬					
2tトラック運転費	式	1			2-4. による ※必要に応じ計上
調査員輸送					
ライトバン運転費	式	1			2-5. による ※必要に応じ計上
マイクロバス運転費	式	1			〃

(備考) 1. 現地確認は、測量技師および測量技師補とし、数量は、次式により求め、二捨三入により0.5人単位とする。但し0.5人以下となる場合は0.5人計上する。また、観測地点が1箇所のみの場合は0.5人ずつ計上する。

$$\left[ \frac{L}{30} + n \text{ (全観測地点数)} \right] \times \frac{1}{7} \quad \text{走行距離 (km) } L : \text{ 積算基地から全観測地点を經由して積算基地へ戻るのに要する走行距離}$$

2. 諸官庁への手続きは、測量技師補が行うものとし、数量は、次式により求め、二捨三入により0.5人単位とする。但し0.5人以下となる場合は0.5人計上する。また、警察署が1箇所のみ場合は測量技師補を0.5人計上する。

$$\left[ \frac{Q}{30} + n' \text{ (全警察署数)} \right] \times \frac{1}{7} \quad \text{走行距離 (km) } Q : \text{ 積算基地から全警察署を經由して積算基地へ戻るのに要する走行距離}$$

3. ライトバンの運転費は、現地確認および諸官庁等への手続きについて計上するものとする。

4. 機材運搬および交通量調査員輸送の必要に応じて、2t積トラックまたはライトバン、マイクロバス等を計上する。

5. 各観測地点の準備及び跡片付は、交通量監督員および交通量調査員について、交通量観測の前後30分ずつ、計1時間を交通量観測費において計上する。

### 2-2. 現地確認

表－3 ライトバン運転費単価表

(1式当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
燃料	ガソリン	リットル				運転1時間当り燃料消費量 (L/h) × 運転時間合計
損料	ライトバン 1.5 L	h				運転時間当たり損料
〃		日				供用日当たり損料

(備考) 1. ライトバンの運転時間は下記の式による。

$$\frac{L}{30 \text{ km/h}} \quad (L : \text{ 走行距離 (表 2 備考 1 と同じ) })$$

2. ライトバンの供用日数は、表－2の備考1で求めた測量技師補の数量を四捨五入による整数止とする。

3. 別途運転手の計上はしない。

## 2-3. 諸官庁への手続き

表－4 ライトバン運転費単価表

(1式当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
燃料	ガソリン	リットル				運転1時間当り燃料消費量 (L/h) × 運転時間合計
損料	ライトバン 1.5 L	h				運転時間当たり損料
〃		日				供用日当たり損料

(備考) 1. ライトバンの運転時間は下記の式による。

$$\frac{\ell}{30\text{km/h}} \quad (\ell : \text{走行距離 (表2 備考2と同じ)}) \text{とする。}$$

2. ライトバンの供用日数は、表－2の備考2で求めた測量技師補の数量を四捨五入による整数止とする。
3. 別途運転手の計上はしない。

## 2-4. 器材運搬

器材運搬については、必要に応じて計上する。

表－5 2tトラック運転費単価表

(1式当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
燃料	軽油	リットル				運転1時間当り燃料消費量 (L/h) × 運転時間合計
損料	2tトラック	h				運転時間当たり損料
〃		日				供用日当たり損料
運転手	一般	人				運転手1時間当たり 労務単価 × 運転時間

(備考) 1. 2tトラックの運搬1回当たりの運転時間は下記とする。

$$\frac{L'}{30\text{km/h}} \quad \text{走行距離 } L' : \text{積算基地から必要観測地点を經由して積算基地へ戻るのに要する走行距離}$$

2. トラックの運搬1回当たりの供用日数は下記とする。

$$\frac{\text{運転時間}}{t} \quad \begin{array}{l} t : \text{供用日当たり運転時間} \\ \text{数量は、二捨三入による整数止とする。但し、1以下は1とする。} \end{array}$$

3. 運転手員数は

$$\text{運転手運転1時間当たり労務歩掛 (人/h)} \times \text{運転時間} = 1 / T \times \text{運転時間} \quad (T : \text{運転日当たり運転時間})$$

4. 上記の t および T は、建設機械等損料算定表を参照すること。

## 2-5. 調査員輸送

- ・調査員の輸送については、必要に応じて計上する。  
尚、ライトバンとマイクロバスの組合せは交通量観測員の規模(人数)を考慮して行う。
- ・ライトバンとマイクロバスの運転時間は、2tトラックに準じるものとする。
- ・ライトバン及びマイクロバスの運転時間が上記によりがたい場合は、別途考慮するものとする。

表－6 ライトバン運転費単価表

(1式当り)

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
燃料	ガソリン	リットル				運転1時間当り燃料消費量 (L/h) × 運転時間合計
損料	ライトバン 1.5 L	h				運転時間当たり損料
〃		日				供用日当たり損料
運転手	一般	人				運転手1時間当たり 労務単価 × 運転時間

表－７ マイクロバス運転費単価表

(1式当り)

名 称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
燃料	ガソリン	リットル				15名乗り：運転1時間当り 燃料消費量(L/h)×h 26名乗り：運転1時間当り 燃料消費量(L/h)×h 29名乗り：運転1時間当り 燃料消費量(L/h)×h
損料	マイクロバス	h				15名乗 運転時間当損料 26名乗 運転時間当損料 29名乗 運転時間当損料
〃	〃	日				15名乗 供用日当損料 26名乗 供用日当損料 29名乗 供用日当損料
運転手	一般	人				運転手1時間当たり 労務単価×運転時間

### 3. 交通量観測費

表－８ 交通量観測費内訳書

(1作業当り)

名 称	単位	数量	単価	金額	摘 要
交通量監督員					
測量技師補	人				3-1. による
交通量調査員					
測量補助員	人				3-2. (1)～(4) による
軽作業員	人				3-2. (1)～(4) による
連絡車運転費	式	1			3-3. による

- (備考) 1. 交通量監督員、交通量調査員の単価は、基準日額を超過勤務手当による補正した単価とし、24時間観測の場合は二交代制勤務として積算する。
2. 交通量監督員1人につき1台、観測地点の内1地点を本部とした観測地点間の連絡車運転費を計上する。

#### 3-1. 交通量監督員

交通量監督員は、測量技師補であり、発注する交通量観測の規模及び観測地点の配置条件等を考慮して計上するものとし、次式により求める。

$$\text{当該作業の交通量監督員の人数} = \left[ A + \frac{L}{10} \right] \times \frac{1}{9}$$

A：当該作業の全観測地点数  
L：走行距離  
(表2 備考1と同じ)

- (備考) 1. 交通量監督員の人数は、二捨三入による整数止とする。但し、1以下は1とする。
2. 観測地点数が1箇所の場合、もしくは算出された交通量監督員の人数が観測地点と同数以上の場合は、交通量監督員の人数は、1箇所当たり1人とし、連絡車運転費は計上しない。

#### 3-2. 交通量調査員

人手観測により、7種分類（乗用車・バス・小型貨物・普通貨物・歩行者・自転車・動力付き二輪車類）、上下方向別の交通量観測を行う場合は、下記のとおりとする。

- (備考) 1. 労務単価は〔基準日額×(1+時間割増し)〕で算定する。  
「設計業務等標準積算基準 技術者基準日額時間外手当の算出」を参照すること。  
交通量観測の前後に30分づつ計1時間の準備及び跡片付時間を見込むものとする。
2. 所定労働時間未満（1回の観測時間が7時間未満）の調査を行う場合、1箇所あたりの作業人員に対して労務単価の補正を行う。

$$\text{所定労働時間未満の労務単価} = \left[ \text{基準日額} \times \frac{(\text{観測時間} + 1(\text{準備及び跡片付}))}{8} \right] \text{で算定する。}$$

#### (1) 単路部

表－９ 編成人員

(1箇所1回当り) (1箇所1時間当り)

昼間観測 (T=7時～19時)			夜間観測 (T=19時～7時)		
昼間12時間交通量	測量補助員	軽作業員	夜間12時間交通量	測量補助員	軽作業員
～ 5,000	1	2	～ 5,000	1	3
5,001 ～ 10,000	1	3	5,001 ～ 10,000	1	4
10,001 ～ 20,000	1	3	10,001 ～ 20,000	1	4
20,001 ～ 30,000	1	4	20,001 ～ 30,000	1	5
30,001 ～ 40,000	1	5	30,001 ～ 40,000	1	6
40,001 ～ 50,000	1	5	40,001 ～ 50,000	1	6
50,001 ～ 60,000	1	※	50,001 ～ 60,000	1	※

※ 1 10,000台ごとに軽作業員を2人増す。

## (2) 交差点部（3 叉路）

表－9 編成人員 (1箇所1回当たり) (1箇所1時間当たり)

昼間観測 (T = 7 時～19 時)			夜間観測 (T = 19 時～7 時)		
昼間12時間交通量	測量補助員	軽作業員	夜間12時間交通量	測量補助員	軽作業員
～ 5,000	1	4	～ 5,000	1	5
5,001 ～ 10,000	1	4	5,001 ～ 10,000	1	5
10,001 ～ 20,000	1	5	10,001 ～ 20,000	1	6
20,001 ～ 30,000	1	6	20,001 ～ 30,000	1	7
30,001 ～ 40,000	1	7	30,001 ～ 40,000	1	8
40,001 ～ 50,000	1	7	40,001 ～ 50,000	1	8
50,001 ～ 60,000	1	※	50,001 ～ 60,000	1	※

※ 1 10,000台ごとに軽作業員を2人増す。

## (3) 交差点部（十字路）

表－9 編成人員 (1箇所1回当たり) (1箇所1時間当たり)

昼間観測 (T = 7 時～19 時)			夜間観測 (T = 19 時～7 時)		
昼間12時間交通量	測量補助員	軽作業員	夜間12時間交通量	測量補助員	軽作業員
～ 5,000	1	5	～ 5,000	1	7
5,001 ～ 10,000	1	5	5,001 ～ 10,000	1	7
10,001 ～ 20,000	1	7	10,001 ～ 20,000	1	9
20,001 ～ 30,000	1	7	20,001 ～ 30,000	1	9
30,001 ～ 40,000	1	9	30,001 ～ 40,000	1	11
40,001 ～ 50,000	1	9	40,001 ～ 50,000	1	11
50,001 ～ 60,000	1	※	50,001 ～ 60,000	1	※

※ 1 10,000台ごとに軽作業員を2人増す。

## (4) 交差点部（5 叉路）

表－9 編成人員 (1箇所1回当たり) (1箇所1時間当たり)

昼間観測 (T = 7 時～19 時)			夜間観測 (T = 19 時～7 時)		
昼間12時間交通量	測量補助員	軽作業員	夜間12時間交通量	測量補助員	軽作業員
～ 5,000	1	6	～ 5,000	1	8
5,001 ～ 10,000	1	6	5,001 ～ 10,000	1	8
10,001 ～ 20,000	1	8	10,001 ～ 20,000	1	10
20,001 ～ 30,000	1	8	20,001 ～ 30,000	1	10
30,001 ～ 40,000	1	10	30,001 ～ 40,000	1	12
40,001 ～ 50,000	1	10	40,001 ～ 50,000	1	12
50,001 ～ 60,000	1	※	50,001 ～ 60,000	1	※

※ 1 10,000台ごとに軽作業員を2人増す。

## 3-3. 連絡車運転

表－10 連絡車運転費単価表 (1式当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
燃料	ガソリン	リットル				運転 1 時間当たり燃料消費量 (L/h) × 運転時間合計
損料	ライトバン 1500cc	h				運転時間当たり損料
〃		台・日				供用日当たり損料

(備考) 1. 連絡車の運転時間は、次式による。なお、訪問回数は3回を標準としているが、必要に応じ別途考慮すること。

$$\frac{\text{走行距離 (L)} \times \text{訪問回数}}{30\text{km/h}} = \frac{L \times 3}{30} = \frac{L}{10} \text{ (時間)}$$

2. 供用日は、3-1. で求めた交通量監督員の人数とするが、24時間観測する場合は、昼夜間いづれが多い方の人数をとり、他方では計上しない。

3. 運転手は交通量監督員とし、計上しない。

## 4. 資料整理

調査結果の資料整理については、下記表－１１により計上する。

表－１１ 資料整理内訳書

(1箇所当り)

区分		測量主任技師	測量技師	測量技師補	測量助手	測量補助員
単路部				0.5	0.5	
交差点部	3叉路			0.5	1.5	
	十字路			0.5	2.0	
	5叉路			0.5	2.5	

(備考) 12時間観測1回を1箇所とすることとし、例えば24時間観測する場合は2箇所、平日・休日各1回ずつ12時間観測の場合も2箇所として計上すること。

## 5. 報告書作成

報告書作成は、下記表－１２により計上する。

なお、雑品については諸経費に含まれるものとする。

調査区分で箇所数が31箇所以上となる場合は、5箇所単位ごとに測量助手0.5人(※)を加算する。

### (1) 単路部

表－１２ 報告書作成内訳書

(1業務当り)

箇所数	測量主任技師	測量技師	測量技師補	測量助手	普通作業員	軽作業員	摘 要
1箇所 ～ 5箇所			0.5	0.5			
6箇所 ～ 10箇所			0.5	1.0			
11箇所 ～ 20箇所			1.0	2.0			
21箇所 ～ 30箇所			1.0	3.0			
31箇所以上			1.0	※			備考1

### (2) 交差点部（3叉路）

表－１２ 報告書作成内訳書

(1業務当り)

箇所数	測量主任技師	測量技師	測量技師補	測量助手	普通作業員	軽作業員	摘 要
1箇所 ～ 5箇所			0.5	1.0			
6箇所 ～ 10箇所			0.5	1.5			
11箇所 ～ 20箇所			1.0	2.5			
21箇所 ～ 30箇所			1.0	3.5			
31箇所以上			1.0	※			備考1

### (3) 交差点部（十字路）

表－１２ 報告書作成内訳書

(1業務当り)

箇所数	測量主任技師	測量技師	測量技師補	測量助手	普通作業員	軽作業員	摘 要
1箇所 ～ 5箇所			0.5	1.5			
6箇所 ～ 10箇所			0.5	2.0			
11箇所 ～ 20箇所			1.0	3.0			
21箇所 ～ 30箇所			1.0	4.0			
31箇所以上			1.0	※			備考1

### (4) 交差点部（5叉路）

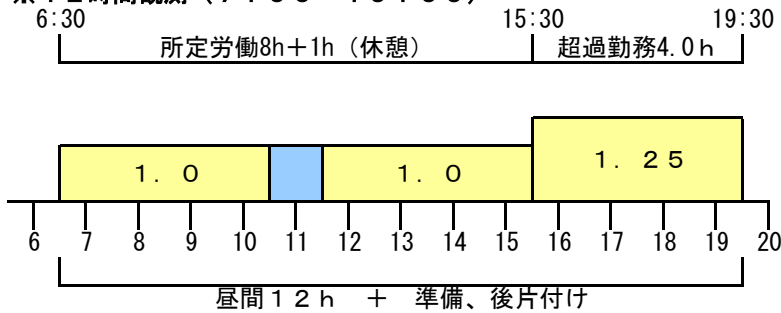
表－１２ 報告書作成内訳書

(1業務当り)

箇所数	測量主任技師	測量技師	測量技師補	測量助手	普通作業員	軽作業員	摘 要
1箇所 ～ 5箇所			0.5	2.0			
6箇所 ～ 10箇所			0.5	2.5			
11箇所 ～ 20箇所			1.0	3.5			
21箇所 ～ 30箇所			1.0	4.5			
31箇所以上			1.0	※			備考1

## 一般交通量調査 労務単価 参考資料

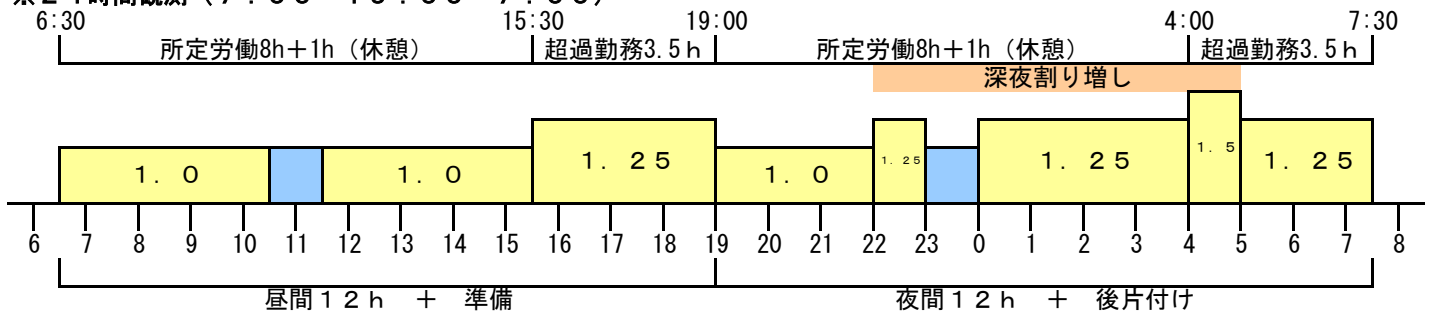
### ※12時間観測（7：00～19：00）



※交通量観測の前後に30分づつ計1時間の準備及び跡片付時間を見込むものとする。

$$\begin{aligned} \text{昼間(24h)調査} &: P \times (1+r \text{ (4.0h} \times 1.25/8)) \\ &= P \times (1+5r/8) \end{aligned}$$

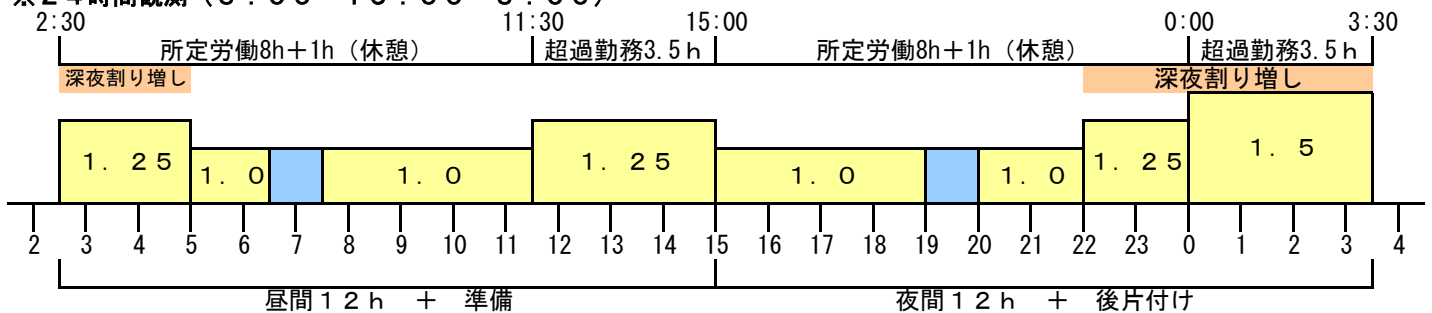
### ※24時間観測（7：00～19：00～7：00）



※交通量観測の前後に30分づつ計1時間の準備及び跡片付時間を見込むものとし、24時間観測の場合の交代時には計上しない。

$$\begin{aligned} \text{昼間(24h)調査} &: P \times (1+r \text{ (3.5h} \times 1.25/8)) \\ &= P \times (1+4.375r/8) \\ \text{夜間(24h)調査} &: P \times (1+r \text{ ((5.0h} \times 0.25 + 1\text{h} \times 1.5 + 2.5\text{h} \times 1.25)/8)) \\ &= P \times (1+5.875r/8) \end{aligned}$$

### ※24時間観測（3：00～15：00～3：00）



※交通量観測の前後に30分づつ計1時間の準備及び跡片付時間を見込むものとし、24時間観測の場合の交代時には計上しない。

$$\begin{aligned} \text{昼間(24h)調査} &: P \times (1+r \text{ ((2.5h} \times 0.25 + 3.5\text{h} \times 1.25)/8)) \\ &= P \times (1+5r/8) \\ \text{夜間(24h)調査} &: P \times (1+r \text{ ((2.0h} \times 0.25 + 3.5\text{h} \times 1.5)/8)) \\ &= P \times (1+5.75r/8) \end{aligned}$$